

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校 学校番号 49

## I 自己評価

1	学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・生きる知恵をもって社会でリーダーシップを発揮する生徒 ・自ら問いを立て「探究」する生徒 ・心に故郷を抱き、世界を見据える生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・質の高い授業と「探究」する学びの提供 ・社会や自然とつながる多様な学びの場の提供 ・一人一人が輝き、仲間とつくる感動の場の提供	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・基礎学力と基本的な生活習慣を身に付けた生徒 ・志をもって自分を伸ばそうとする生徒 ・大学進学を目指す生徒
3	評価する領域・分野	◇探究理数科・SSH		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・主体的テーマ設定数の割合の増加や生徒の論理的思考力の向上、外部コンクールでの入賞、探究的な学習がもたらす生徒の進路実現への寄与等で成果を上げた。アンケートでは生徒71.6%、保護者65.4%が探究活動の成果を評価しており、昨年比増である。今後も系統的な課題研究や論理的思考力の育成、SSHを体験した卒業生や地域人材の活用をさらに発展させ、地域から持続的に理数系人材を育成できる教育システムの開発に力を入れていく。		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇課題研究：問題発見能力と科学的探究力を育成する指導法の実践。 ◇学校設定科目：論理的思考力と表現力を育成する指導の実践。 ◇探究型学習のパフォーマンス評価の研究開発。		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・探究理数科部およびSSH実行委員会を置く。 ・SSH実行委員会は各分掌、教科、学年と連携する。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 課題研究の指導計画、方法の改善 (2) 学校設定科目の指導内容の改善 (3) 外部機関と連携した事業の展開		(1) 生徒意識調査 (2) 連携先・保護者・教員へのアンケート (3) 運営指導委員会による指導と評価	
9	取組状況・実践内容等		10 評価視点	11 評価
	①課題研究：第一学年ではミニ課題研究を反復しテーマ設定を行った。第二学年で探究を深め、第三学年ではまとめと外部での発表を行った。 ②ディベートと英語による表現を積み重ね、論理的思考力と表現力の習得と評価を行った。 ③探究型学習を繰り返し、主体的・協働的に問題を解決する活動を行った。		①課題研究により問題発見能等4つの力が育成できたか。 ②論理的思考育成プログラムにより論理的思考力、表現力が育成できたか。 ③探究型学習の評価方法を開発し試行できたか。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D
12	成果・課題	○課題研究：第一学年は問題発見を重視し主体的なテーマ設定を実践できた。第二学年では指導方法の工夫により研究がより深化した。その成果は発表会等で確認できた。第三学年は外部発表へ積極的に参加し成果を普及した。 ○地域と連携した探究講座を、手法を改善して発展的に実施できた。 ○オンラインを活用した講座や指導を発展させながら継続した。 ▲課題研究の指導内容と評価法については引き続き検討を続ける。 ▲本校の新しい教育課程に対応できる指導計画を立案する必要がある。		総合評価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案 (①手立て ②見通し ③根拠)			
	①課題研究が深化する指導と、生徒の変容を把握できる評価法の開発を継続する。課題研究の指導法を探究学習型授業に生かす試行、地域と連携した探究活動への取組と改善を継続する。 ②今年度の実践を元に改善を進めることで達成できる。 ③今年度行った改善で事業の質を向上できた。また探究学習の指導法、パフォーマンス評価の試行を通して、評価と一体化した学習指導を試行することができた。			

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月10日

### 【意見・要望・評価等】

・課題研究に取り組み、このような活動に参加できてよかったと答えることができる生徒が育っている。そのような恵那高生の姿と課題研究の成果を中学生にも見せたい。そのような機会を多く作っていただくと、中学生の進路決定の参考にもなるのではないか。是非実施して欲しい。